

予防鍼灸研究会（SGPAM）

第26回定例会抄録

テーマ：

コミュニティとしての医療

2026年6月28日

目次

障害はあるけれども医療従事者として働く私	謝花良幸	2
就労環境創出の効果と集団活動への参加	木村高仁	3
戦後80年の医療・福祉の街 ベーテル	橋本孝	4

障害はあるけれども医療従事者として働く私

鍼灸と指圧マッサージCualia院長 謝花良幸

【背景・目的】2008年にレーベル遺伝性視神経症を発症し視覚障害者となった私は、本年、沖縄県宜野座村にて鍼灸院を開業した。同村でも「沖縄クライシス（健康長寿の崩壊）」が課題となる中、前職である産業衛生分野（ヘルスキーパー）の経験を活かした地域連携を模索している。本報では、視覚障害者による鍼灸院開業における地域連携のプロセスと、就労上の課題について報告する。【対象・方法】1.趣味のランニングを通じて住民と交流、祭りへの参加、行政や公民館への訪問により、地域の健康課題を具体的にヒアリングした。2.視覚障害者サポートセンターを利用し、端末操作支援、同行援護や歩行支援の紹介を導入した。3.視覚障害者でも対応可能な運動支援（健やかな体作りの指導）や地域支援（ボランティア活動）に積極的に参加した。4.地域のだれもが安心して暮らせるまちづくりをめざす社会福祉協議会や地域のスポーツ推進団体である体育協議会に対しては、時間をかけて当院の機能や役割について継続的な周知活動を行うことにした。【結果】事前の関係構築により、開業時における行政および地域住民への挨拶や周知が円滑に進行した。また、各種団体との連携基盤が構築された。【考察】視覚障害を抱える鍼灸マッサージ師の開業において、自身の残存機能の活用と社会資源の導入、そして積極的な地域コミュニティへの参入が有効であった。【結論】今後も地域との双方向の取り組みを継続し、障害者の就労課題の解決を目指したい。

略歴

2009年 沖縄盲学校 理療科入学
2012年 同学校卒、はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師 免許取得
2012年 社会医療法人仁愛会 浦添総合病院 ヘルスキーパー職
2023年 株式会社クオリサイトテクノロジーズ ヘルスキーパー職
2026年 鍼灸と指圧マッサージCualia開業

就労環境創出の効果と集団活動への参加

有限会社仁取締役 木村高仁

有限会社仁では令和6年11月より在宅就労を開始し、現在9名が参加している。就労継続支援B型事業所と連携し、タオルの仕分けや洗濯、在宅でのタオルたたみ作業を通じて工賃を得る仕組みを構築している。自ら関わったりネンが他者に使用されることで社会参加の実感が生まれ、施設外とのつながりや孤立の軽減にもつながっている。また、慣れた環境で無理なく働けるため、体調に合わせた継続的な就労が可能となり、生活リズムや意欲の向上にも寄与している。さらに令和7年4月から開始した集団活動では、嚥下体操や手工芸、風船バレー、音楽鑑賞などを実施し、嚥下機能や上肢機能の維持向上に加え、他者との関わりによる社会性の維持や生活意欲の向上を図っている。医療的安定を土台に、就労・活動・参加・承認へと段階的に支援することで、「できない」を「できる」に変え、生活の質や役割意識の向上を実現している。これらの取り組みにより、利用者は安心できる環境の中で自分らしく働き、社会とのつながりを実感しながら、より充実した生活を送ることが可能となっている。

略歴

2000年 有限会社みやこホームヘルプ事業所入職

2006年 有限会社仁 設立 取締役就任

同年に 有料老人ホーム 難病ケアハウス仁開所

訪問看護 訪問介護 居宅支援事業所設立

2026年 埼玉県三郷市・吉川市において有料老人ホーム4施設

通所介護1施設・喀痰吸引登録研修機関・薬局を運営。

難病ケアに特化した施設運営を展開

戦後80年の医療・福祉の街 ベーテル

宇都宮大学名誉教授 橋本孝

ドイツのビーレフェルト市にあるベーテル（ヘブライ語で神の家の意）は、てんかんや知的障害、精神疾患などの患者12,000人と、働いている人が18,000人いる世界最大級の総合福祉地区になっています。しかし、元々はてんかん患者を受け入れる施設で、初めは小さな農家を改良し10数名の患者を持っていたに過ぎなかったのです。様子が一変したのは、フリートリッヒ・フォン・ボーデルシュヴィング牧師が施設長として招聘されてからです。彼の父がプロイセン王国の財務大臣だったので、精力的に資金を集め、つぎつぎと収容施設や病院を建設していきました。またベーテル紙幣（今はベーテル・ユーロ）の発行も国から許可され、今ではEUからも許可され、ベーテル・ユーロとなっています。ベーテルには保育園から幼稚園や小学校、ギムナジウム、神学大学があります。また特殊学校と併設され、相互に行き来するように配慮されています。病院はてんかんセンターの他に、子どもクリニック（大学病院と共同して）から総合病院やリハビリテーション、老人ホームやホスピス、ホームレスの収容施設など完備され、一般の市民も受診出来ます。製菓会社ドクター・エトカーや自動車のメルセデス・ベンツなど多くの企業が、障害を持っている人々が働くために、大きな支援をしています。世界中から寄付金とぼろ着が寄せられ「ぼろ着専門のデパート」も出ています。

第二次大戦中はナチスの「障害者安楽死政策」の対象となりましたが、息子のフリッツ牧師が「障害者であろうとも『同じ人間であって、働いている』」ことを前面に出し、闘い抜きました。難局を切り抜けたベーテルは今では公益慈善団体ベーテルとなって、どんな人でも仕事をし、揺りかごから墓場まで安心して過ごせるようになっています。日本にも公益慈善団体の核となる施設が出来ることを望みます。

略歴

岡山県新見市生まれのドイツ文学者

1957年 中央大学法学部法律学科卒業

1968年 宇都宮大学教養部助教授

1994年 同大学国際学部教授

1998年 定年退官し名誉教授

ドイツ・ヴュルツブルク大学およびエアランゲン大学客員教授、

日本グリム協会会長

2014年 瑞宝中綬章受章

2021年 ドイツ連邦共和国功勞勲章一等功勞十字章を受章